

名誉会員追悼



故 名誉会員 草川 隆次 先生

一般社団法人日本鉄鋼協会 名誉会員、早稲田大学名誉教授、工学博士 草川隆次先生は、平成24年10月7日ご逝去されました。享年94歳。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は、昭和17年9月早稲田大学理工学部応用金属学科をご卒業。同年10月同大学理工学部教務補助を委嘱され、直ちに陸軍に服務され昭和20年9月復員後同大学に復職されました。昭和22年同大学理工学部講師、昭和24年12月助教授、昭和36年4月教授に昇任され鉄冶金学の研究室を担当されました。一方昭和22年4月早稲田大学鋳物研究所補助を兼担、昭和24年10月副研究員、昭和27年2月研究員を兼担され、昭和51年10月より昭和55年9月まで鋳物研究所所長を委嘱されました。また昭和36年1月工学博士の学位を取得されました。平成元年3月に早稲田大学を定年によりご退職され、平成元年4月早稲田大学名誉教授の称号を授与されました。

この間、先生は球状黒鉛鋳鉄に関する物性基礎の先駆的研究、更にはその先進的製造技術の開発に携われました。また、鉄鋼に関する分野では脱酸の速度論的研究、純鉄の高純度化とその物性に関する研究、さらにはストリップキャストリングによる薄板の連続鋳造法の開発など非常に多岐にわたる分野で先導的な研究をなされ、鉄冶金の基礎、応用分野で大きな貢献をなされました。これらの研究を通じて実に多くの研究者及び技術者の育成に尽力され、鉄鋼界へ人材を送り出されております。

球状黒鉛鋳鉄の分野ではMg処理球状黒鉛鋳鉄の物性、特性の把握をパイオニア的研究でなされ、実用的に安全なCa処理球状黒鉛鋳鉄の開発へと発展され、その製造技術の確立を実現されました。さらに酸素活量の測定を通じて黒鉛の球状化機構の解明を行われるなどこの分野の発展に画期的な業績を残されております。

また、鉄鋼の分野では、鋼の脱酸の速度論的研究を通じてカルシウムシリコン、アルミニウムシリコンなどの複合脱酸機構を解明され、高品質鋼への有益な指針を示されました。さらに純鉄研究の先駆けとして帯域溶融精製法による高純度純鉄の創製とその物性の解明に貴重な知見を提供されました。

また、プロセス研究の分野では、ベッセマー法を基盤とした超薄板連続鋳造法にいち早く取り組まれ、SUS304、球状黒鉛鋳鉄などの薄板製法確立のための多くの基礎資料を提供され、当該研究開発者に大きな影響を与えられました。

これらのすぐれた研究業績に対して、本会より三島賞(昭和58年)、日本金属学会より谷川・ハリス賞(昭和55年)、日本鋳造工学会より論文賞(昭和40年、47年)、小林賞(昭和32年)、久保田鉄工賞(昭和58年)、日本鋳造工学会大賞(平成5年)が授与されました。

また昭和63年に本会名誉会員の称号を授与され、さらに平成4年の叙勲において勲三等瑞宝章を授与されております。さらに、先生は、日本鉄鋼協会理事、資料委員会委員長、基礎共研純鉄部会長などの要職を努められ野呂賞(昭和60年)を授与されています。さらに日本金属学会理事、日本鋳造工学会理事・副会長・名誉会員、日本工学会理事、日本材料科学会理事などを永年務められ広く学会事業の発展に大きく貢献されました。

先生が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績に感謝し、会員一同衷心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成24年10月

日本鉄鋼協会 会長 勝山 憲夫